

# 第1回 医療製品識別とトレーサビリティ推進協議会

UDI や UI で医療製品を識別し製品データと結びつけ、医療の質・安全・効率化をはかる、第1回医療製品識別とトレーサビリティ推進協議会が開催されました。

出席者は別紙資料に示すように有識者、医療関係、産業関係団体とオブザーバとして厚生労働省医政局総務課、経済課、医薬・生活衛生局医療機器審査管理課、安全対策課、医薬品医療機器総合機構(PMDA)安全第一部、医薬品産業関係、マスコミでした。

冒頭、厚生労働省医薬・生活衛生局の武田局長から協議会の意義と期待について挨拶があり、その後落合議長のもとで議事が進められました。

会議では「医療製品識別コード利活用の現状と課題」を主テーマとし、

- ① 日本の医療の現状（医療財政の危機、人口構造の変化、ビッグデータの時代）から、安全と質に加え、効率性の維持のため、自動認識可能でトレーサビリティの確保の必要性が示されました。
- ② 次に有識者の先生方から、先進的病院での標準化コードの利活用やトレーサビリティの有用性が話されました。
- ③ ついで、各委員との間で活発な議論がかわされ、本件の重要性は各人が認識したうえで、ビッグデータで使うためには標準化が必要、またデータベースの整備、分類コードの重要性、実現のためのロードマップの明確化等の議論がありました。

医療製品識別とトレーサビリティ推進協議会  
事務局

第 1 回医療製品識別とトレーサビリティ推進協議会

日時：平成 28 年 12 月 16 日（金）10:00～12:00

場所：A P 新橋虎ノ門 会議室 A

NS 虎ノ門ビル(日本酒造虎ノ門ビル)11F

(Tel:03-3501-2109)

議 事 次 第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員・オブザーバー委員紹介
4. 議長ご挨拶
5. 医療製品識別コード利活用の現状と課題について
6. 意見交換
7. 閉会

【配付資料】

資料－1：議事次第

資料－2：出席者名簿

資料－3：席次表

資料－4：医療製品識別とトレーサビリティ推進協議会

資料－5：田中委員資料

資料－6：中田委員資料

資料－7：美代委員資料

参考資料：医療製品サプライチェーンの現状と課題

以上

## 医療製品識別とトレーサビリティ推進協議会 出席者

(敬称は省略)

## 【委員】

- 議長  
落合 慈之 東京医療保健大学・学事顧問／NTT 東日本関東病院名誉院長
- 有識者  
森田 朗 国立社会保障・人口問題研究所所長  
日本ユーザービリティ医療情報化推進協議会 理事長  
中田 精三 伊丹市病院事業管理者 市立伊丹病院  
田中 聖人 京都第二赤十字病院 消化器科副部長・医療社会事業部副部長  
第二検査部長・医療情報室長  
美代 賢吾 国立国際医療研究センター 理事長特任補佐・医療情報管理部門長
- 医療団体関係  
市川 朝洋 (公社) 日本医師会 常任理事  
杉山 茂夫 (公社) 日本歯科医師会 常務理事  
渡邊 大記 (公社) 日本薬剤師会 常務理事  
大道 道大 (一社) 日本病院会 副会長 (四病院団体協議会代表)  
仙賀 裕 (公社) 全国自治体病院協議会 常務理事  
  
中澤 靖夫 (公社) 日本診療放射線技師会 会長  
那須野 修一 (公社) 日本臨床工学技士会 専務理事  
土屋 文人 (一社) 日本病院薬剤師会 副会長
- 産業団体関係  
松本 謙一 (一社) 日本医療機器産業連合会 副会長  
森 清一 (一社) 日本医療機器販売業協会 会長
- 関係団体  
武隈 良治 (一財) 医療情報システム開発センター 標準化推進部 主任研究員  
濱野 径雄 (一財) 流通システム開発センター 常務理事  
GS1 ヘルスケアジャパン協議会  
山下 尚登 (一社) 日本医療機器ネットワーク協会 会長  
小島 謙二 日本ユーザービリティ医療情報化推進協議会 事務局長  
松本 義久 SPD研究会 副理事長

## 【オブザーバー】

- 産業団体関係  
高田 義博 日本製薬団体連合会 常務理事  
菅野 正寛 (一社) 日本医薬品卸売業連合会 企画調査部次長
- マスコミ関係  
本田 真由美 読売新聞東京本社 医療ネットワーク事務局次長
- 行政関係  
武田 俊彦 厚生労働省 医薬・生活衛生局長  
名越 究 厚生労働省 医政局 総務課医療安全推進室長  
大西 友弘 経済課長  
山口 貴久 経済課首席流通指導官  
磯部 総一郎 医薬・生活衛生局 医療機器審査管理課長  
佐藤 大作 安全対策課長  
近藤 恵美子 (独)医薬品医療機器総合機構 安全第一部長